



# SAMI NEWS No.26

動物医療発明研究会 2011 January

みなさまお元気ですか？ ゆっくり、じっくり、落ち着いて1匹（1人）ずつ、向き合って診療できる季節になりました。

これから、お役立ち NEWS を少しずつお届けしようと思います。

動物医療発明研究会が皆様のコミュニケーションのかけ橋になって、さらに一味違った動物病院に、そしてもっと仕事を楽しんでいただけたらと思います。

今回は、木村 順一郎先生と齊藤 陽彦先生からご寄稿を頂きました。ご紹介いたします。

## 木村 順一郎 先生 東京都新宿区 開業

初めに、私が動物医療発明研究会のお手伝いをさせていただくようになったのは、小暮規夫先生におさそいいただいてからです。

昭和23年旧制日本大学付属第一中学校から東京獣医畜産専門学校へ進学、3年間で修業の筈でしたが、新制に移行するという事で1年間特別授業の延長とかで昭和27年に卒業と時代の変化の初期に社会人となりました。

昭和25年に当時アメリカの占領軍、総司令官マッカーサー夫人とイギリス大使夫人レディ・ガスコインにより設立された、日本動物愛護協会付属動物病院（東京・千駄ヶ谷）の初代動物病院院長・動物病院長・長倉義夫先生に、獣医の学生であった私が当動物病院内に泊まり込みで師事。

講和条約発効と同時に研修を終え、昭和29年9月新宿区神楽坂のすぐ近くで開業。昭和53年3月新宿区早稲田に居を移し今日に至る。

早稲田大学文学部の塀沿いの路地裏というところに、町医者として機能できる最低限の設備を心がけておりますが、まだまだ至らないというよりも、設備投資が消却できず悩む毎日です。昭和29年開業当時・新宿区に10人の開業者だけで宣伝の必要なく、患者が来院して診療に追われる毎日でした。したがって、ポリシーを打ち立てることもなく、路地裏の病院に名称だけを掲げるだけで今日までできてしまいました。

昭和29年と言うと生活様式が近代化するはじまり、白黒テレビがまさに発売され、車に冷房がな

いのがあたりまえ、医療機器も注射器で言えばガラス製品という時代です。全ては手造り。大工さんに頼んだ木製の診察台、手術のときはその上で。後に、東京・目黒で開業されている猪野和郎先生ご考案の小動物用木製手術台はいまだに重宝して使わせていただいております。

開業して間もなく来院した猫がキャリーから飛び出して逃げ、捕まえるのに苦労しました。その日外出するときに2軒隣の八百屋さんの店先をのぞくと、玉ねぎを入れていたあき袋が積まれています。「これだ」と思い、譲ってくださいとお願いしたら、気持ちよく持っていきなと無料で10枚くださいました。それからは猫を連れて見える患者にお渡しして必ずこの袋に入れて連れてくるようにとお願いするようになりました。現在、当院に来院する方々は、洗濯用のネットを利用して連れてきます。

東京都獣医師協同組合理事に就任してから、久山登美雄氏・小暮規夫氏の両先輩と協力し、アメリカの獣医学書カークの皮膚病を始めベテリナリークリニック等の翻訳・普及、ペットフードの普及、特にヒルズの処方食に力を入れました。麻酔に関しては、フローセンという吸入麻酔薬が発明され、エーテルによる発火の危険性を克服出来るようになりました。使用するに当たり初期の気化器は10kg以上の体重がないと安定した麻酔を得られず危険を伴いました。アコマという麻酔器メーカーと獣医師協同組合と協同で開発し、獣医師の先生方に提供しました。以上、書籍・食事・麻酔とこれらの翻訳・開発を担当して、獣医療の発展・向上にいくらかでも寄与できたかと自負しております。

関西では岸上先生が、小動物の整形外科分野での数々の発明をされ、業績を残されたことは広く知られております。時は日進月歩で流れ去りゆきます、過去を振り返る暇もなく進みます。これからも新しい発見、発明が数多く発表されることを期待しております。

## 齋藤 陽彦(さいとうあきひこ) 先生 東京都文京区 開業

1954 年 生まれ 出生地 千葉県船橋市 1977 年 麻布獣医科大学卒業

2000 年 学位取得 酪農学園大学, 外科学教室の故小谷教授にご指導頂きました

**病院の紹介** 1984 年に現在地でトライアングル動物病院開業しました。トライアングルとは、診療対象となる動物、オーナー、病院の3者の信頼関係を意味しています。いろいろ好きなことをさせて頂きましたが、あまり流行る病院ではありませんでした。眼科診療に特化しようと考えたきっかけは、開業獣医師の診療濃度が深くなり、自分のキャパを超えてゆく事を実感したためです。

2006 年 5 月にトライアングル動物眼科診療室に改組改称、眼科診療のみとしました。一般診療のクライアントに理解して頂く期間は5年間くらいかかりました。

現在は勤務獣医師2名を含む3名で診療にあたっています。勤務医の1名は学部卒業と同時に当院に就職、社会人として近所の医学部大学院入学、眼表面のムチンについて研究、来春卒業予定、在職6年目です。もう1名は学部卒業後、獣医学部大学院でイヌの網膜脈絡膜循環について研究、大学院卒業と同時に当院に就職、在職4年目です。二人とも外来診療、手術、カンファランス講師、雑誌執筆、学会発表など大車輪の活躍です。

また、2年前より有給研修医制度を開始、現在まで4名が終了、現在は3名の獣医師が研修中です。資格は臨床経験2年以上、研修期間6ヵ月単位で、2回まで延長可能です。

研修期間を通じ、多くの眼科疾患を体験、終了後には一般臨床病院での眼科診療に役立ててもらいたいと考えています。また、獣医眼科の特殊性など、啓蒙活動にも貢献してもらいたいと考えています。研修医にはテーマを与え、研修終了時にトライアングル動物眼科診療室症例カンファランスで発表するよう義務づけています。

**ポリシー** 獣医眼科専門診療を通じ、臨床研究成果を公表する姿勢を維持推進すること。

**過去の発明・発見・アイデア** 1. 涙やけのイヌには角膜上皮障害があることを発見 2. 前房圧を確保したまま眼内手術を終了する3手法を考案 3. イヌの内眼角形成術に関するアイデア  
**上記のきっかけ**

1. に対し、眼科診療に興味を持ち始めたものの日常診療では眼科疾患が殆どなかった頃、ひたすらシルマーテストを実施、正常犬と涙やけのイヌの相違をみつけた。

2. に対し、眼内手術終了時に一時的に前房が虚脱することが多く、さまざまなトラブルの原因となっていた頃、助手を含む3手で洗浄針抜去と縫合を同時に行う方法を考案。

3. に対し、1997年、JAHA国際セミナーで米国眼科専門医から教えて頂いた内眼角形成術の問題点を徐々に解決、2010年10月に開催された米国獣医眼科専門医大会(ACVO)にて術式報告。

**失敗談** 1. いろいろ

**これからやりたい事** 1. ファームプレスから発行されている、獣医眼科カンファランス Part-1、に続き、Part-2、3を執筆すること。2. 眼科症例データを論文発表すること。3. 国内での獣医眼科研究、教育、診療の体系化、特に臨床眼科情報の共有化。4. 安全な白内障手術・網膜硝子体手術の開発啓蒙。5. 友達を無くさないよう気配りすること

**今、夢中になって取り組んでいること**

1. 今年の1月から習っているゴルフの上達。2. 全然上達しない英会話を細々と継続すること。3. 今年発表した内眼角形成術(SMMC)のビデオ作成。4. 2011年10月、濟州島で開催されるWSAVAと同時開催予定の国際獣医眼科学会(ISVO)での講演準備。

**発明研究会の皆様にお伝えしたいこと** 1. 角膜潰瘍は侮らずに、眼瞼縫合などで積極的に治療して下さい。

**発明研究会で自分がやりたいこと、発表したいこと** 1. これ以上望みはございません。

## 2011年のスケジュール

### 1、日本獣医内科学アカデミー参加 2011年3月 横浜パシフィコ

今年度は、以下の講演を行います。

12日(土) 9:00~10:45 齊藤 陽彦 トライアングル動物眼科診療室

第8会場(4F 416+417):教育講演 『眼科医療のアイディア』

13日(日) 13:15~14:00 清水 邦一 清水動物病院

第12会場(4F 422):教育講演 『いきいき臨床の醍醐味』

14:15~15:00 清水 宏子 清水動物病院

第12会場(4F 422):教育講演 『原点は光芒の芽』

### 2、2011年 年内に、役員会

### 3、総会の開催

### 4、SAMI NEWSの定期発行

### 5、その他

各学会への参加等の検討。

新規事業の検討。

新規会員の募集について。



**SAMI NEWS 25号**

**発行日 2011年1月1日**

**発行所 動物医療発明研究会事務局**

**発行人 会長 清水 邦一**

**事務局 230-0061 神奈川県横浜市鶴見区佃**

**野町 3-3**

**TEL(045)583-3738**

**FAX(045)583-3594**